

# 老舗ならではの豊富な経験と建築知識

塗装はもちろん！以下の工事も得意としています。

- 防水、外装（屋根・外壁の修理、交換、貼り換え）
- 内装（壁紙、床、ふすまの貼り換え）
- サッシ工事（内窓の設置、窓・玄関・カギ類の交換）
- 水回りリフォーム（キッチン、お風呂、トイレ）
- 間取りリフォーム（室内壁の撤去・新設）
- インターホン・エアコンの交換（電気工事の資格あり）

外構工事、解体工事（資格あり）ほか

下請に丸投げ工事はありません。

見積前にこのチラシ提示で3万円相当の特別診断が無料！



防犯カメラ工事お請けします！  
(国産防犯カメラ正規代理店)

老舗ならではの  
高い技術と施工知識



ホームページ

## 施工後

サイディング壁の和風住宅  
モルタル壁のジョリパット仕上げ  
瓦は和瓦からスパニッシュ瓦に変更！

老舗の責任と誇りは、半端な仕事を良しとしません。だからこそ、あのランドマークも、あの有名建物も——人知れず岡部塗装店の仕事であることがあります。派手な宣伝より、積み重ねた実績が答えです。

老舗の責任と誇りは、半端な仕事を良しとしません。だからこそ、あのランドマークも、あの有名建物も——人知れず岡部塗装店の仕事であることがあります。派手な宣伝より、積み重ねた実績が答えです。

しかも厄介なのは、短期間は改善したように見えること。だから「一般の方ほど」「その工法が本当に必要か」「どれくらい持つのか」を判断しづらいのが現実です。だからこそ大事なものは、なぜその方法なのか、を根拠とセットで説明し、メリットだけでなくリスクまで正直に話す会社を選ぶこと。

## 老舗の実力

塗装やリフォームの補修は、見た目がきれいになれば「直った」と思いがちです。けれど現場では、知識や経験が足りないまま、手っ取り早い方法で、それっぽく整える。三流施工が行われてしまうことがあります。たとえば、モルタル壁やサイディングを安易にVカットして埋める、屋根瓦のひび割れをコーキングだけで済ませる。状況によっては、それが根本解決にならず、数年後に同じ症状がぶり返す原因になることもあります。

# 塗外壁と屋根

家は直してから塗るのが正解



施工前

大工さんが作った和風の家

## 適正価格

外壁塗装【110㎡程度】 **65万円**から

ラジカル塗料（足場、外壁・軒・破風・雨樋の塗装と洗浄）税込71.5万円

屋根塗装（遮熱塗装） **22万円**から

屋根用シリコン塗料（80㎡、洗浄・下塗り・上塗り2回）税込24.2万円

確実に直して塗る！  
だから長持ち！

外壁や屋根の塗り替えは、単なる「色替え」ではありません。ひび割れ、シーリング切れ、下地の浮き・腐食、板金の納まり不良、雨仕舞いの弱点——原因を残したまま塗ると、見た目は良くても数年で剥がれや雨漏り再発につながることがあります。だから当社は創業約五十年あり、塗装店と工務店の両面から「家は直してから塗る」をとっても大切にしてきました。

当社は国土交通省所管の国家資格「一級建築施工管理技士」をはじめ、公共工事には必須のビルディングドクター、建築仕上げ改修施工管理技術者など、修繕に必要な知識と現場力を備えています。何社も原因を解明できなかった雨漏りを突き止めて止めた例や、新築時の施工ミスを是正して健全な状態に戻した例も多数。前橋東照宮本殿改修をはじめ、地域のランドマーク建物の大規模修繕を直接任された実績があります。

私たちは「塗装や工事を売る会社」ではなく、「家を直す会社」です。だから営業マンはいません。現場を知る担当者が直接拝見し、納まり・劣化・雨の入り道を読み解いて原因を絞り込みます。特定の条件でしか有効でない散水試験は原則行わず、豊富な経験と確かな診断力でムダな工程は増やしません。

（ご相談・現地確認（概況把握）は無料で承ります。（写真付きの詳細報告書の作成や、原因切り分けを伴う踏み込んだ診断は、内容に応じて調査費をご相談させていただきます。）必要な補修は明確に、不要な工事は勧めません。「ただ塗るだけ」に不安を感じたら、まずは「ご相談ください。」

TEL027-231-3333

contact@grandtech.jp

〒371-0031 前橋市下小出町2-16-4

明治10年(頃)創業 明治34年設立

# 岡部塗装店

(有限会社グランテック)

# 塗装・リフォーム価格が大高騰



2026年春号  
オカベの答え

- 塗る前に「直す」家を守る塗装
- 劣化を診断 必要な工事だけ提案
- 安さより、「納得」の塗り替え
- 「長持ち」前提の施工と仕上
- 現場の答えは「職人品質の塗装」

## 安売り時代が終わった!!

### 価格高騰で業者選びに変化

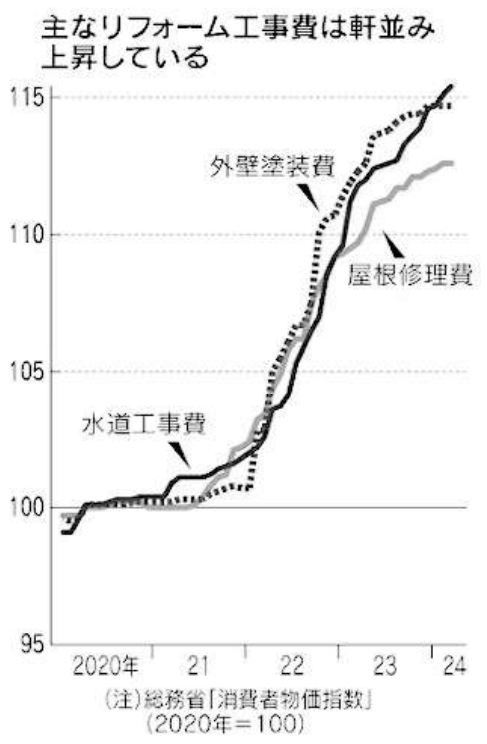
以前は「とにかく安く」が選ばれた大きな理由でした。しかし近年は、輸入品である原材料の高騰も影響して、安売りの時代が終わったと言われるほど、材料費・運搬費・人件費が上昇し、必要な品質を守るための適正価格が求められるようになってきています。「安売り粗悪」の構図が明確になったのです。無理に価格を下げれば、材料のグレードを落とす、工程や下地処理を省く、乾燥時間を短縮するなど、見えない部分にシワ寄せが出ます。すでに、価格だけで判断するほどリスクが高い時代に突入しました。

### 「信用できない」!? ネットの口コミ

建築の技術力や信用は、「大手だから安心」「小さいから不安」といった単純な図式や、ネット上の口コミだけでは決まりません。口コミは偏りや意図的に操作されることもあるためです。重要なのは、その会社がどの方針で仕事をしているかです。例えば「技術を持った社員が工事に携わる」「下地を確実に診断する」「工程を守る」「現場で誤魔化さない」「説明責任を果たす」といった姿勢は、規模ではなく方針で決まります。つまり基準は会社のサイズではなく「現場

### 「安売り」するには 手抜きをするしかない

見積書は合計金額だけを比べても、必要な工事が入っていないかは分かりません。塗り替えやリフォームは、同じ「外壁塗装」「屋根工事」でも中身は大きく違います。下地補修の範囲、使



「何を、なぜ、どこまで、どう直すのか」この4つが明確な会社は、工事後も安心が続きます。同じ塗料を使っても診断力と技術でモチは変わります。すでに「安さ」ではなく「価値」で選ぶ時代です。将来的にかかるの修繕費までを含めて考え、賢明で確実な判断が重要です。

### 技術ある職人が激減!

塗装工事の現場は、職人不足が限界に近づいています。特に深刻なのは、技術をもつ50代以下の職人が本場に少なく、技術の継承が途切れかけていることです。このままでは刷毛の納まりや下地判断など「仕上がりを決める技」が次世代に残りません。結果として10年後には、まともに工事を組めない、品質を維持できない現場が増える可能性があります。さらに職人が激減している現在、やたらと職人が多い会社ほど、「技術を問わず雇い入れて人数を揃えたり、下請けを寄せ集めて回しているのではないかと」そう疑いたくなる場面もあります。

### 品質＝会社の考え方

工事は完成した瞬間ではなく、その後しばらく(数年)経ってから評価が決まります。だからこそ「どんな会社が、どんな考え方で、どんな現場を積み重ねてきたのか」を知ることが重要です。品質は会社の考え方で決まります。創業の経緯、地域での実績、職人や管理体制、説明の丁寧さ、保証や点検の考え方。こうした背景は、工事の品質と責任感の裏付けになります。「どこが安いか」より「なぜその工事をその方法で行うのか」を語る会社を選びましょう。

### 価格より「価値」で選べ!

塗り替えもリフォームも、暮らして資産を守るための大切な工事です。だからこそ「価格だけ」で決めるのではなく、「品質」と「会社の考え方」をよく確認することが失敗を避ける近道です。「何を、なぜ、どこまで、どう直すのか」この4つが明確な会社は、工事後も安心が続きます。同じ塗料を使っても診断力と技術でモチは変わります。すでに「安さ」ではなく「価値」で選ぶ時代です。将来的にかかるの修繕費までを含めて考え、賢明で確実な判断が重要です。

### 防水も、雨漏りもお任せください!

原因不明の雨漏り 頼れる特定のプロ 「何度直しても止まらない」「原因が分からないと言われた」「雨漏りは、暮らしの不安だけでなく建物の寿命も縮めます。当社は防水工事と雨漏り修繕を得意とし、原因不明の雨漏りをいくつも解決してきました。私たちが最も重視するのは、ただ塞ぐのではなく、雨の侵入口を突き止め、建物の仕組みに沿って根本から改善へ導くことです。国がスクラップ&ビルドからストック活用へ転換した当初から、公共物件を含むコンクリート建物の大規模修繕に必要な資格を備え、多くの工事に携わってきました。大規模修繕では、防水は「仕上げ」ではなく、躯体を守り建物寿命を延ばす中核工程です。屋上・外壁・バルコニー・笠木・設備架台など、雨水が入りやすい弱点を現場で数多く見てきた経験が、雨漏り診断力の土台になっています。木造住宅の雨仕舞においては構造だけでなく現場からも学び、板金・開口部・取り合いの弱点を見抜く力を磨いてきました。

前橋市下小出町 2-16-4  
TEL027-231-3333  
contact@grandtech.jp

150年余りの歴史がある老舗の責任と誇り  
**岡部 塗装 店**

より詳しくウェブに載せています!  
QRコード

防水業界には元請けでありながら自社に診断・施工の技術が乏しく、外注職人任せになっている会社も存在します。そうした体制では原因究明が浅くなり、「直したのに再発が起ることがあります。だから当社は、原因を自社で特定できるノウハウの蓄積を最優先に業務を行ってきました。発生条件の整理、症状の出方の読み取り、取り合い部の確認、必要に応じた検証(散水試験等)を通じて、仮説検証と対策確認の手順で再発リスクを抑え、原因不明の雨漏りが裁判にまで発展した案件でも侵入経路を特定し、解決へ導いた実績があります。他社で直らなかつた雨漏りこそ、ぜひ当社にご相談ください。

### 岡部塗装店物語 第一話

1853年、黒船が浦賀に現れ、日本は大きな変化の時を迎えた。海に向かうから来た黒い船は、海面だけでなく人の心の奥にまで波を立て、町の噂は「異国」という言葉を何度も繰り返した。1859年、横浜が開港すると、港には潮の匂いに混じって香辛料や油の匂いが漂い、新しい道具や見慣れぬ材料の話が渦を巻いた。誰もが日々の暮らしに追われながらも、時代そのものが少しずつ塗り替わっていくのを感じていた。

新潟の比較的裕福な家の次男として生まれた岡部平吉は、塗師屋として漆を扱う職人をしてきた。漆は約5千年前の土器にも跡が残り、仏教伝来とともに建築技術と一緒に洗練され、風雨から守る塗りに「美しく見せる」という価値と重なっていった。平吉はその歴史を本で読んだのではない。刷毛の抵抗、指先に残る粘り、乾き際の光——感覚の積み重ねとして知っていた。師匠は言った。「漆はただの液体ではない。塗る者の心まで映す」。平吉も塗り面に自分の息遣いが残るのを感じていた。

だが幕末、ペリーと黒船が洋式塗料を持ってきた——そんな話が職人の間を駆け巡る。日米和親条約の建物に初めて洋式塗料が塗られた、江戸の町田辰五郎という名も、噂話のように耳へ入った。漆の世界にいる者ほど眉をひそめ、「外国の塗り物など長持ちするものか」と言った。けれど平吉だけは胸の奥が熱くなるのを止められない。明治に入り近代化が加速すると、西洋式建築と西洋式塗料の「本物」が横浜にあるらしい。噂は輪郭を持ち、遠い港の色が目の前に立ち上る。平吉の胸で「次の時代」を追いかける火が、静かに強く燃えた。

1871年、解放令発布。どこへでも行けるとい言葉は、自由より先に決断を迫ってきた。(次号に続く)